

滋賀県 I C T 推進戦略について

令和元年5月24日

滋賀県総合企画部情報政策課

戦略策定の趣旨

ICTやデータを課題解決に向けた有効な手段として積極的に活用していくこととし、ICTの進歩に的確に対応しながら、計画的にICTやデータの活用施策を推進していくためのビジョンとして、「滋賀県ICT推進戦略」を策定

戦略の位置付け

- ① ICTおよびデータの利活用を促進していく指針として、滋賀県政の総合的かつ計画的な発展に寄与するもの
- ② 県民・企業・大学・各種団体・行政等の多様な主体がICTおよびデータの利活用についての方向性を共有し、連携を深めていくためのビジョンとして提示するもの
- ③ 官民データ活用推進基本法(平成28年法律第103号)に基づく「都道府県官民データ活用推進計画」として定めるもの

対象となる取組

- ◆ 県が実施主体となって行う取組、県の支援により行う県以外の実施主体の取組
- ◆ 県が県以外の実施主体と連携して行う取組、県の促進・調整等により県以外の実施主体間で連携して行われる取組
- ◆ 県以外の実施主体が行う取組のうち、他の参考となる取組、その他、県域のICTおよびデータの利活用の推進に寄与する取組

計画期間

- ◆ 平成30年度(2018年度)から平成34年度(2022年度)までの5年間
- ◆ 今後の社会経済情勢の変化、ICTの進展、国の政策の動向、次期基本構想の検討・策定等を踏まえ、必要に応じて本戦略を見直し

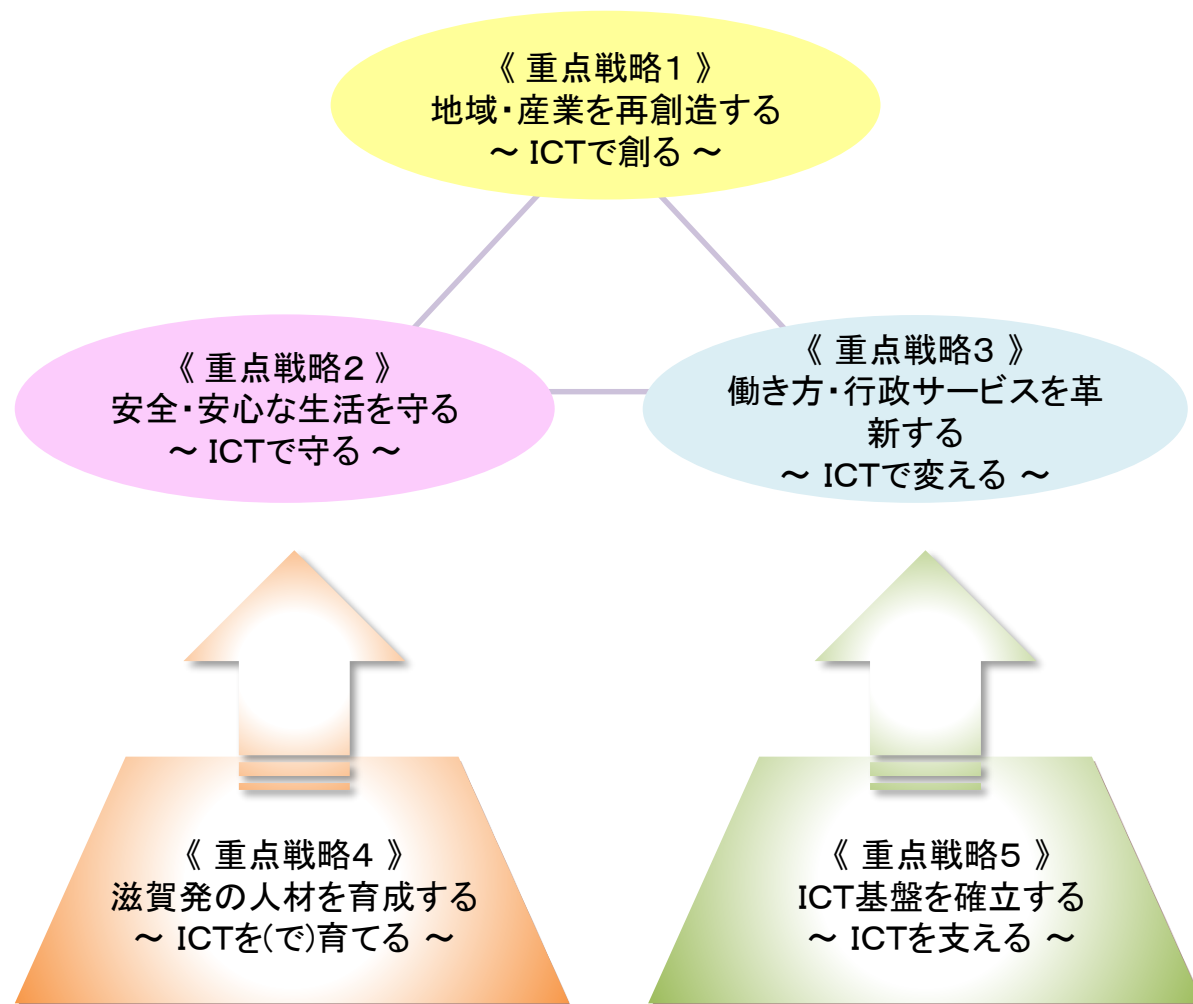
3つの基本方針

＜基本方針1＞
全ての県民にICT・データの
利活用を広げていく

＜基本方針2＞
ICT・データを活用し、限りある資
源を共有・シェアする

＜基本方針3＞
多様な主体・異分野の連携によ
り、ICT・データで新たな価値を
創造する

5つの重点戦略



重点戦略1 地域・産業を再創造する

～ I C Tで創る ～

- ① I o Tの推進による地域の課題解決と本県経済の活性化
- ② スマート農業の推進
- ③ 地域のエネルギー・交通への活用
- ④ I C Tの活用による観光振興
- ⑤ マイナンバーカードを活用した地域の活性化
- ⑥ シェアリング・エコノミーの普及促進

重点戦略2 安全・安心な生活を守る

～ I C Tで守る ～

- ① 防災・防犯分野における I C Tの活用
- ② 健康・医療・介護分野における I C Tの活用
- ③ 社会資本の整備・維持管理における I C Tの活用

重点戦略3 働き方・行政サービスを革新する

～ I C Tで変える ～

- ① I C Tによる「働き方改革」の実現
- ② インターネット利用による手続等に係る取組(オンライン化原則) ※
- ③ オープンデータの推進 ※
- ④ マイナンバー制度の普及・活用 ※
- ⑤ 業務・システム改革 ※
- ⑥ E B P Mの推進

※ 官民データ活用推進基本法に基づく都道府県官民データ活用推進計画として取り組む施策

重点戦略4 滋賀発の人材を育成する

～ I C Tを(で)育てる ～

- ① 専門教育
- ② 学校教育
- ③ I C Tリテラシー
- ④ 官民データ活用基盤の構築(後掲)

重点戦略5 I C T基盤を確立する

～ I C Tを支える ～

- ① 情報通信ネットワークの整備促進
- ② 官民データ活用基盤の構築
- ③ I C Tおよびデータの活用を推進するための場づくり
- ④ 情報セキュリティの確保

IoTの推進

- IoT（Internet of Things）の活用による地域の課題解決と本県経済の活性化

センサ
+ 通信機能

クラウド・
データ分析

新しい製品・
サービス



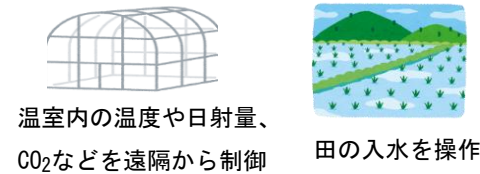
IoT Acceleration
Shiga pref Lab

(平成29年3月13日経済産業省選定)

生活や産業における
新しい価値の創造

スマート農業の推進

- 農作業や家畜飼養管理の効率化による労力の大幅な削減、きめ細やかな管理による農畜産物の収量・品質の向上、農作業の早期習得による人材の育成



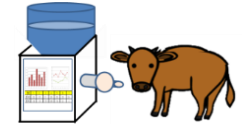
温室内の温度や日射量、
CO2などを遠隔から制御



田の入水を操作



遠隔操作による
環境制御栽培や水管理



哺乳ロボット等を活用した
多頭哺育技術体系の確立

自動直進田植機

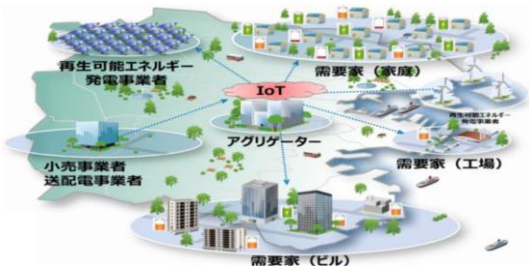
無人トラクタ



G P S 機能付自動運転農業機械の活用

地域のエネルギー・交通への活用

- 省エネルギー・節電の推進、エネルギーの効率的な活用推進等
- 自動運転等の新たな技術の普及促進による持続可能な地域公共交通の実現



(出典)資源エネルギー庁資料

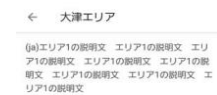


試験運転中の自動運転車

ICTの活用によるビワイチの推進

- サイクリングナビアプリにより「調べる」「行動する」「発信する」を支援

『BIWAICHI CYCLING NAVI』



スポットを選んで
ルート設定！



走行中におすすめス
ポットを提案！



走行シーンの自動撮
影！



(

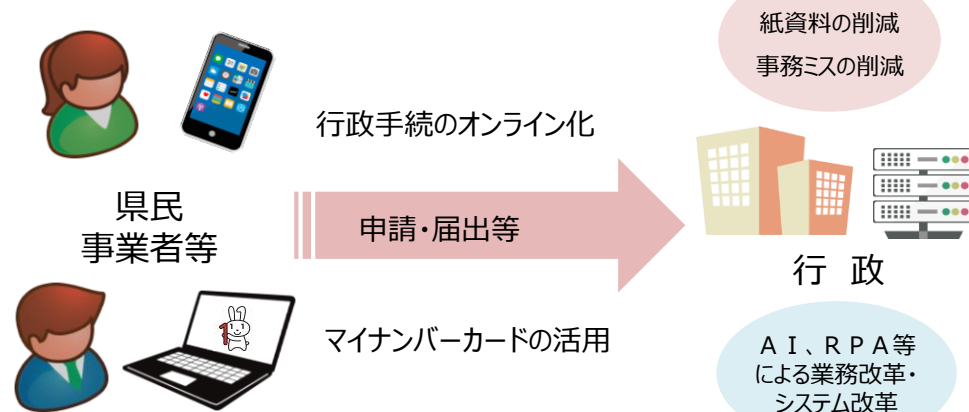
働き方改革の実現

- テレワークの導入等、ＩＣＴの活用による生産性の向上、多様な働き方の実現



インターネット利用による手続等

- 行政手続におけるオンライン化、情報システム改革・業務の見直し（B P R = Business Process Reengineering）

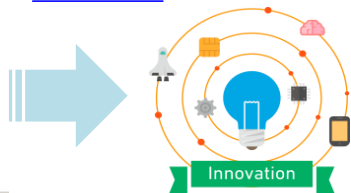


オープンデータの推進

- オープンデータの推進による地域課題の解決、行政事務の効率化、新たなサービスの創出



滋賀県オープンデータ
カタログ
<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/it/opendata.html>



EBPMの推進

- 統計等の客観的データを積極的に利用して、証拠に基づく政策立案（E B P M = Evidence Based Policy Making）を推進
- データを活用する能力、データを重視する文化の普及



- ✓ 人口推計データの充実
- ✓ 行政職員向け専門統計研修の実施
- ✓ データを活用した研究事業



統計相談窓口

専門教育

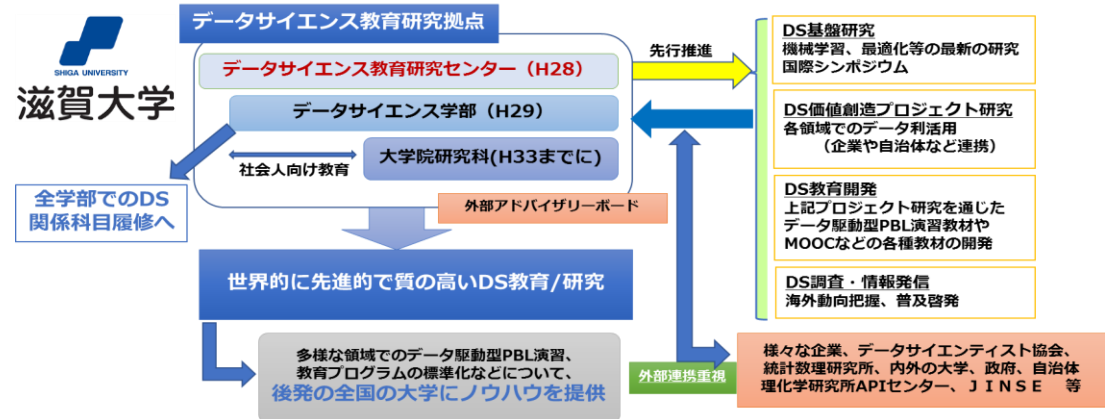
- IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）等が発達した社会において、これらの技術を活用するためのスキルやマインドを持ったICT人材、データサイエンス人材の育成、インターンシップ等による人材の地域への定着



(平成29年 4月設立)

大学のモットー
“テキストは人間”ソフトもハードも
モノづくり
(工学部が基礎に)未来の地域・滋賀県の姿
(スマート農業・看護・観光)

日本初のデータサイエンス学部—DS教育研究拠点形成



学校教育

- 学校現場における教員のICT活用指導力の向上、情報通信機器やネットワークの整備等、学校のICT環境の整備



情報理工学科

システムアーキテクトコース
先端社会デザインコース
画像・音メディアコース
情報システムグローバルコース

セキュリティ・ネットワークコース
実世界情報コース
知能情報コース

ICTを効果的に使用
するための授業研究会

タブレット学習



電子黒板の活用

(草津市教育委員会提供)

情報通信ネットワークの整備促進

- 県域無料Wi-Fiの整備促進による観光・商業の振興、災害対策の強化等



県域無料Wi-Fiの
統一ブランド
「びわ湖Free Wi-Fi」

アクセスポイント
1052箇所
(H31.3末現在)



「びわ湖Free Wi-Fi」ポータルサイト
<http://biwako-wifi-info.jp>



ICTおよびデータの活用を推進するための場づくり

- 情報共有・情報交換・意見交換、新たな技術やサービスに関するニーズとシーズのマッチング、様々な主体が連携して検討、実証、導入、普及を行うための場づくり

<滋賀ICT大賞2018最優秀作品>

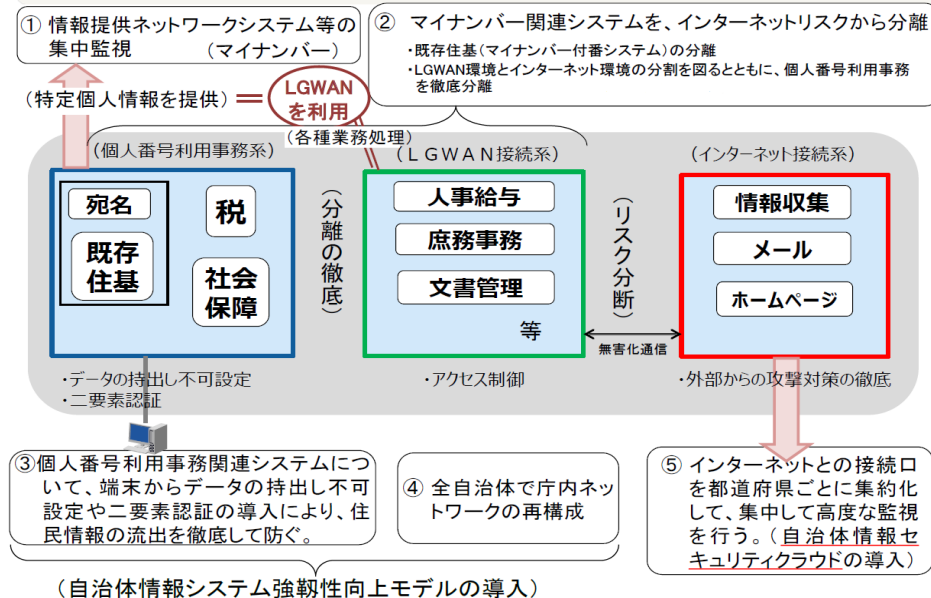


<ICT利活用プレゼンテーション会>



情報セキュリティの確保

- 日々巧妙化するサイバー攻撃等に対し、自治体における情報セキュリティ（機密性、可用性、完全性）を確保



[出典：総務省資料]

- コンピュータ・ネットワークを利用した犯罪の被害やその拡大防止と違法・有害情報の排除、ネットワーク社会の健全な発展



サイバー犯罪防止教室



街頭啓発活動



<策定・見直しフェーズ>

- 「滋賀県ICT推進戦略」の策定・見直し
- 「滋賀県ICT推進戦略実施計画」の策定・見直し

「滋賀県ICT推進懇話会」(有識者会議)

「滋賀県地域情報化推進会議」(産学官連携組織)

等による意見・提案等

戦略の
実行・見直し
サイクル

<実行フェーズ>

- 事業者、教育・研究機関、市町、県等の連携により実施

取組事例の
発信・横展開

<評価フェーズ>

- 「滋賀県ICT推進戦略実施計画」に基づく県の具体的な取組・目標については、「滋賀県情報化推進庁内連絡会議」において、進捗管理・横展開
- 民間、市町等の取組については、産学官連携組織である「滋賀県地域情報化推進会議」の事業等を通じて情報把握

滋賀県地域情報化推進会議とは

目的

企業や経済団体、学術研究機関、自治体が、異なる分野や地域間で連携をはかり、より便利・快適に、より安全に安心して、生き生きと暮らせる情報化社会の実現を目指します。

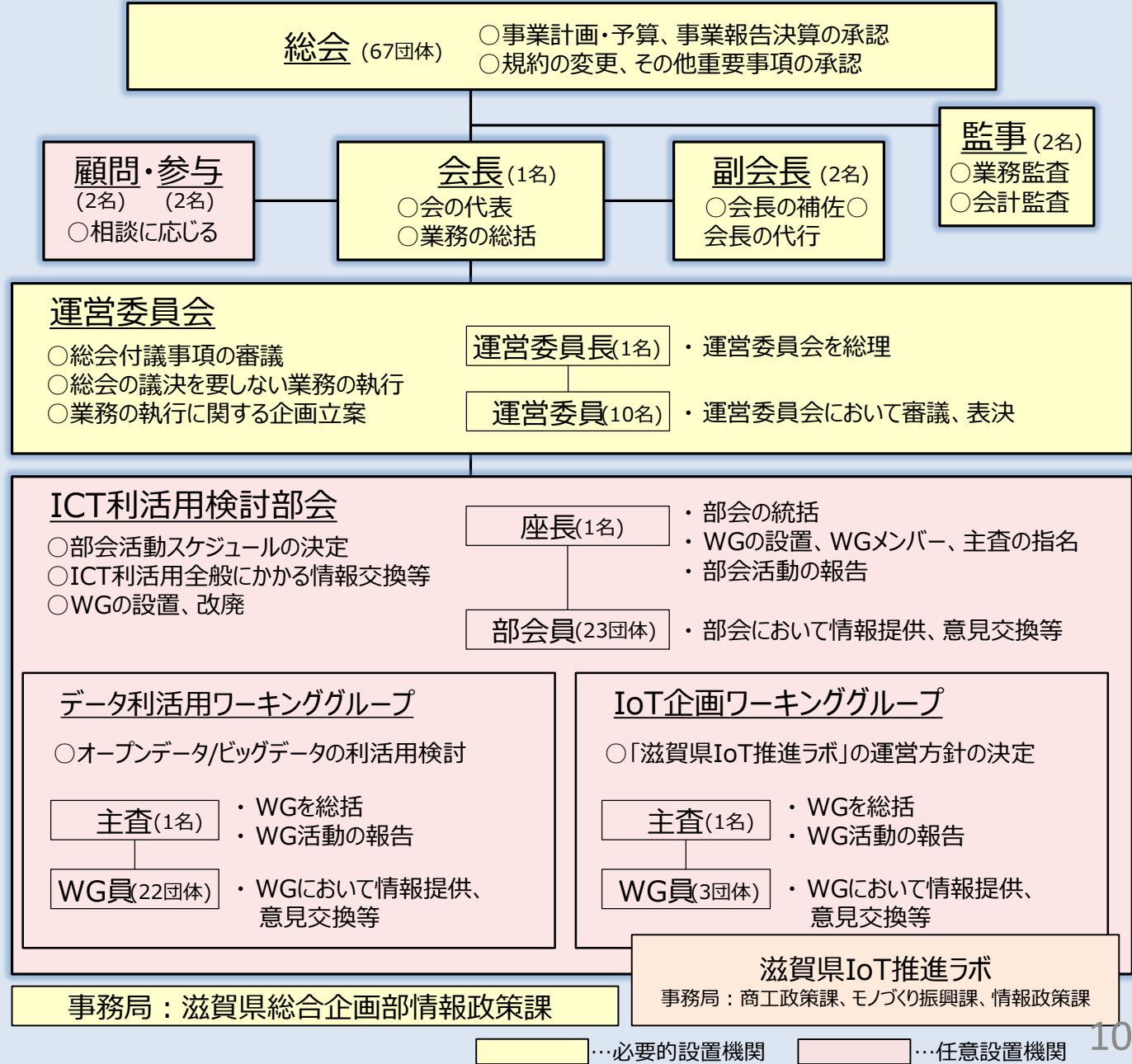
沿革

- S63.3 しがニューメディア推進連絡会議設立
情報通信技術の普及啓発、技術の習得に努める
- H4.4 滋賀県高度情報化推進会議と改称
高度化する情報化社会(情報通信技術)への対応を図る
- H18.6 滋賀県地域情報化推進会議と改称
情報通信基盤の整備普及が一段落したことから、その利活用へと取り組みを転換

活動

- ①産学官の会員担当者が参加する調査研究会活動
 - ◆H26から「ICT利活用検討部会」を設置。オープンデータ/ビッグデータについて調査研究を実施
 - H29からワーキンググループ(WG)を設置して検討を深める
- ②一般を対象にした地域情報化の普及・啓発事業(講演会、セミナー、イベント)
- ③先進地の視察・研修会
- ④会員相互間の連携事業
- ⑤会員相互間、外部識者との交流会
- ⑥情報化に関する情報発信

組織と役割



滋賀データ活用ラボ(しがらぼ)について



背景及び概要

- 県内の産学官金により構成されている「滋賀県情報化推進会議」を母体とする「ICT利活用部会」においては、Society5.0で象徴されるAI・IoTやロボティクスなどの革新的な技術が今後我が国において展開され、あらゆる分野で現在とは全く異なる社会が実現される将来を見据え、地域課題の抽出から課題解決までの各プロセスにおけるICTやビックデータの積極的な活用を推進することとした。
- 県民・県内企業・大学・各種団体・行政等の多様な主体がオープンデータを積極的に活用しつつ、それぞれが保有するデータの利活用について方向性を共有し、今後の本県の発展のために連携して取り組むために、滋賀データ活用ラボ(しがらぼ)を設置するものである。

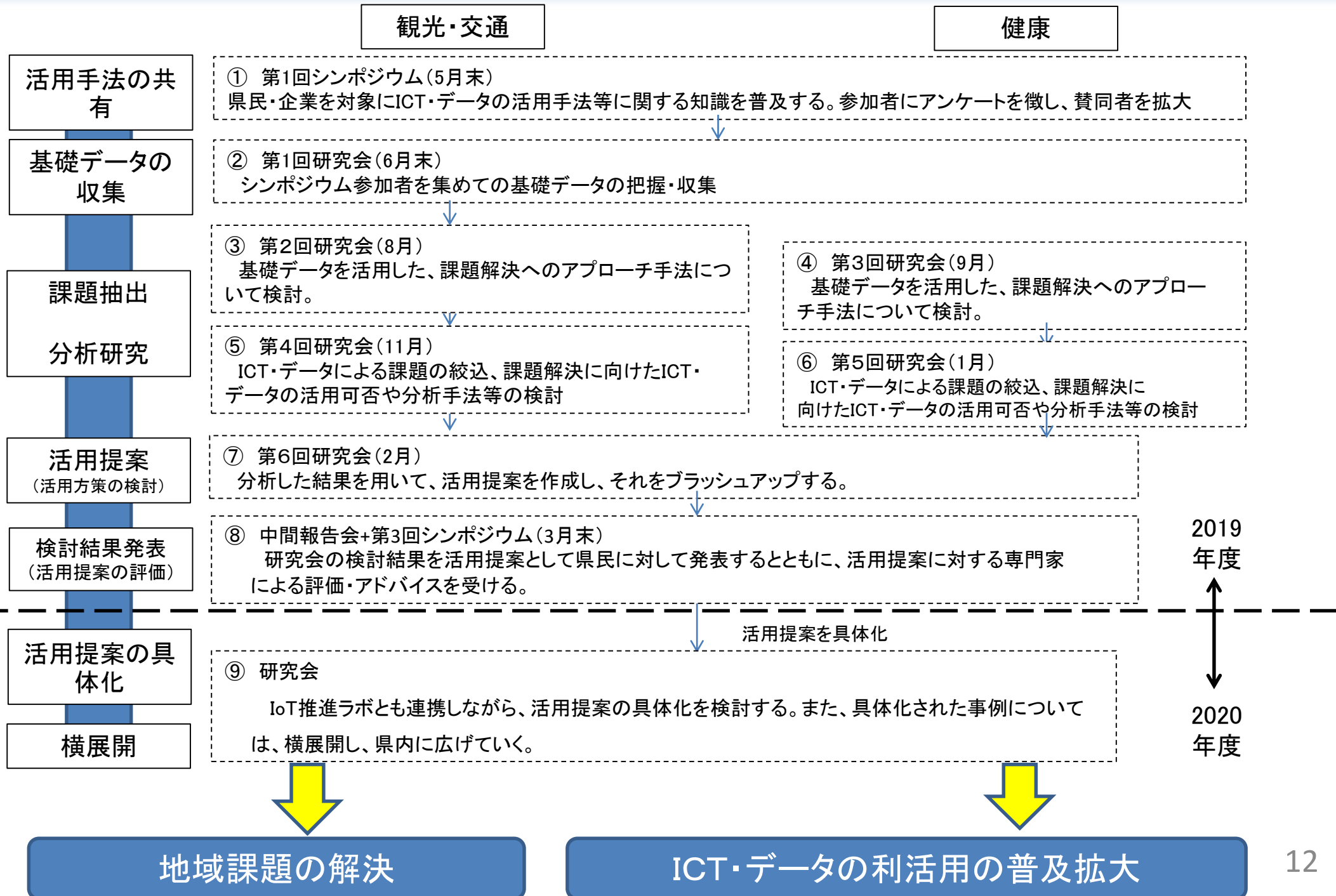
取組内容

- 主に「観光」・「交通」・「健康」の3分野に係るビックデータを活用し、実用提案に向けた研究・シンポジウム等を実施する。
- ICT・ビックデータにより、それぞれの分野に係る課題を抽出・可視化し、その活用手法を共有・横展開する。
- 研究結果(集約データを含む)の利活用を希望する企業・団体等とのマッチングに向けた検討を進める。

実施期間

- 令和元年(2019年度)5月から令和4年度(2022年度)末まで

滋賀データ活用ラボ研究事業 スケジュール(案)



概要

セキュリティやヘルスケア、車載、家電などにおいて、デバイスをネットワークで結び、新たなイノベーションやビジネスチャンスを生み出すM2M(Machine to Machine)が拡大し、IoT(Internet of Things)の世界が現実のものとなりつつあります。

近年、IoTのインフラやプラットフォーム導入のフェーズから、データ活用に注目が移りつつあります。特にGPSやAIなどを活用したデータ分析は大きなマーケットが期待されています。

本企画では観光・交通・健康分野の活用事例を交え、IoT時代のデータ活用によって新たなビジネス創出を実現するための情報をご紹介しますため、シンポジウムを開催するものです。

＜シンポジウム概要＞

名 称:「IoT時代のビックデータ活用」
日 時:2019年5月28日(火) 13:00 (受付開始 12:30)
会 場:ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター(定員200名)
プログラム: 開会にあたって 13:00-13:20

滋賀県地域情報化推進会議 会長

滋賀県立大学 地域ひと・モノ・未来情報研究センター長 酒井 道

基調講演「IoT時代のビックデータ活用」 13:20-14:20

富士通株式会社 AIサービス事業本部エグゼクティブディレクター 中条 薫氏

専門セッション① 観光「観光ビッグデータを活用した地域の未来づくり」14:30-15:20

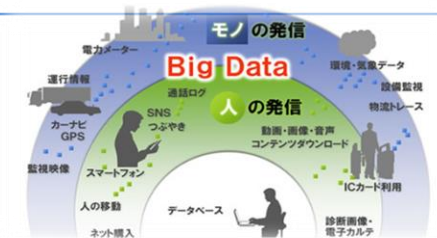
株式会社リクルートライフスタイル

じゃらんリサーチセンターグループマネージャー 高橋 佑司氏

専門セッション② 食「食トレンドデータから考える地域活性化」15:20-16:10

株式会社ぐるなび ぐるなび大学講師 渡邊 元気氏

名刺交換会 16:15-16:45



(写真はイメージ)

ご清聴ありがとうございました。